



# バプテスト 北九州地方連合ニュース

発行日:2019.11.10 | Vol.41 | 発行者:山崎克明

発行所:〒803-0846  
北九州市小倉北区下町津 2-15-21  
Tel: (093)561-0772  
Fax: (093)561-0760  
シオン山教会内  
北九州地方連合 総務財務委員会

## 三歩目 東八幡教会

8月27日(火)~28日(水)第2回プレディガーゼミナール in 北九州が行われました。今回のテーマは「死—今日における教会的・神学的意味—」、特別講師に寺園喜基先生(九州大学名誉教授)をお迎えしました。14名(神学生2名含む)の参加でした。

特別講師の寺園先生は、イエスが十字架のかけられた意味と目的を、端的に「受難と献身」と語られました。参加した牧師たちや神学生たちは、それぞれの関心事に惹きつけながら、寺園先生が問題提起してくださった「死」の意味と目的について語り合いました。

イエスはローマの法律に従って十字架にかけられて殺されました。しかし復活信仰を与えられた弟子たちは、受難の意味について語り出します。「十字架につけられたのは神の子メシアであった」。イエスは贖いのために十字架にかけられたのです。

では、復活のイエスは何処にいくのでしょうか。奥田知志牧師は閉会礼拝の中で次のように応答しておられました。「難死させられたものは再びガリラヤの地に戻される。難死を強いた自分への裁きと赦しのために。そして難死の死を遂げる者がこれ以上起こされないために」。今年も新たな出会いと気付きとを携えて、それぞれの持ち場に帰りました。



## これからの予定

11月29日(木)センター運営委員会(シオン山) 13時  
12月19日(木)地方連合役員会(シオン山)18時半

2020年

1月1日(水)地方連合新年礼拝(シオン山)14時  
19日(日)おじゃまします南小倉教会 14時  
25日(土)地方連合信徒研修会(シオン山)10時  
テーマ:信徒説教 講師:松見俊先生

## 宣教支援センターHP&Facebook

ニュースレターなどのバックナンバーを閲覧するにはパスワードが必要です。

HP: <http://bapkitaq.jimdo.com>

パスワード: kitag2015



## もう一度教会おじゃまします

伝道委員会では、2016年1月から2018年3月まで、北九州地方連合の加盟教会を相互訪問する「教会おじゃましますプロジェクト」を行いました。その後、複数教会が協働して課題解決に取り組んでいる教会を訪ねようということで、防府教会+小野田教会(会場:防府教会)、遠賀川流域教会(会場:芦屋教会)におじゃまさせていただきました。

もう一度地方連合の諸教会を訪ねたいというリクエストが伝道委員会に寄せられました。そこで「もう一度教会おじゃましますプロジェクト」と銘打って、二巡目の相互訪問を3か月に1回のペースで行うことにいたしました。

7月20日(土)光教会への訪問の様子を、伝道委員の萩正博さん(富野)が報告してくださいました。以下にご紹介いたします。【伝道委員長 國分美知子(防府)】

## もう一度教会おじゃましますプロジェクト in 光教会

「もう一度教会おじゃましますプロジェクト」で光教会を訪問しました。最寄り駅からの道が分からずに迷われた方もありましたが、定刻の14時には皆さんが揃いました。10教会29名の参加でした。この日に先立って、シオン山教会と光教会の有志の皆さんで、草取りや会堂清掃をして準備してくださいました。ありがとうございます。プログラムは小礼拝から始まります。國分美知子伝道委員長(防府)の司会、金井佳代子さん(光)の奏楽で主に賛美をささげ、荒瀬謙二先生から「思いわずらうな」という題で奨励をいただきました。西南女学院中学の生徒さんが毎週欠かさず礼拝出席していることを知り、地域のニーズがあることを知りました。

後半は伝道委員の大庭博子さん(小倉)の進行で、恒例となっている対話の時間を持ちました。齊藤主事が光教会の方に向けて「この教会が無くなったら困るのではないですか?」と問いかけたところ、光教会に通われているお二人の姉妹から、「礼拝出席は少人数ですが、光教会をこの地で続けていきたい」との力強い応答がありました。参加者からは「皆さんの信仰が教会を支えるのです」との励ましの言葉がありました。集う者がいて、祈りのあるところには、主が共にいてくださる。インマヌエルの主に感謝する集会となりました。

10月19日(土)若松教会に続きまして、今回は南小倉教会にて2020年1月19日(日)14時から行います。一人でも多くの皆様にお集まりいただき、地方連合が変わりつつあることを肌で感じていただきたく思います。【伝道委員 萩正博(富野)】

開催日時:2019年7月20日(土)14時~16時 会場:光キリスト教会

## PickUP! CONTENTS

- ➔ 連 合 「教会の保険は大丈夫ですか/今年もソフトボールができました」
- ➔ 集会報告 「人びとが分け隔てなく集える教会とは」
- ➔ 各 会 「中間教会ワーク感謝！」

郵便振替 01590-7-3255 加入者名 バプテスト北九州地方連合  
通信欄に「宣教支援センター支援献金」と明記してください。



## 教会の保険は大丈夫ですか

北九州地方連合では、今年度から「総務財務委員会」が具体的に始動しました。

本委員会の働きは①地方連合ニュースの発行、②地方連合協力献金の推進、③地方連合規約等に基づく円滑な諸活動の推進、④財政計画の検討等、多岐に渡っています。

現在、総務財務委員会のサポート教会は豊前教会だけであるため、引き続き地方連合諸教会にサポート教会の呼びかけをしております。ご協力をお願いいたします。

ところで7月の総務財務委員会で「教会の保険」についての話題が出ました。みなさんの教会はどのような保険に入っておられるでしょうか。保障内容についてご存知でしょうか。今は自然災害による被害が多く、教会も決して無関係ではありません。

私の所属するシオン山教会は、昨年7月の豪雨の際、雨水管の不具合で教育館の地下にあふれた雨水が入り込み、地下のエレベーター機械室の一部が浸水する被害を受けました。何よりも驚かされたのは、教会で加入していた保険が使えなかったことです。

浸水40cm以上であれば保険を適用することができたそうです。このときの浸水は40cm以下でした。したがって修理費は、教会の負担となりました。

「保険に入っているから大丈夫」と言う前に、一度、教会の保険について再確認してみたいかがでしょうか。【総務財務委員長 伊藤光雄(シオン山)】

## 中間教会ワーク感謝！

夏真っ盛りの8月半ば、中間教会の礼拝に齊藤主事が出席されました。扇風機を回し、出席者は首に保冷剤を巻き、礼拝の前後に麦茶を飲んで、熱中症にならないように気を付けながら主日礼拝を守りました。礼拝後の交わりの折、主事より「連合壮年会が奉仕先を探していますよ。教会の周りの草刈りをお願いしてみてもは？」と声を掛けられました。

日頃、礼拝出席だけで精一杯の教会員は、生い茂る草木を緑の背景として黙認することで逃げていました。「奉仕先を探している」という主事の言葉は、私共にとってホッとする言葉でした。私たちには日ごろ地方連合の集会に参加できていない負い目があったからです。

9月14日(土)当日は、連合壮年会から7名、遠くは大分からの参加者もありました。昼食準備のため、中間教会から3名、支援センターから1名の姉妹が参加しました。草刈り機持参の大掛かりな奉仕隊となりました。活動の初めに、菊岡義修連合壮年会長(東八幡)の司会で小礼拝をささげました。当日は健康が守られて、安部寅彦牧師による奨励をいただくことができました。

会堂内は32.4℃、外は35℃を上回る、残暑厳しい中での草刈り奉仕でした。昼食を挟んで、刈り取った草の後片付けを終えた頃には、時計の針は14時を回っていました。

翌日の礼拝に出席した教会員一同で、感謝の思いを新たにしました。田舎の小さな教会へのご奉仕を通して、神様が私たちの教会を見守り、励ましておられることに感謝しました。

【安部照子(中間)】



## 人びとが分け隔てなく集える教会

6月29日(土)から翌30日(日)にかけて、中村吉基牧師(日本基督教団正教師、宗教とLGBTネットワーク代表)を迎えて南小倉バプテスト教会夏の特別企画「いのちの水」を開催しました。北九州地方連合共催。

6月29日は夜7時から特別講座「教会にLGBTを迎えよう」には50名が参加。キリスト教や教会においてLGBTの人々についてどのような姿勢や態度がとられてきたかが示されました。キリスト教会の信仰が問われるひとときでした。

翌6月30日の主日礼拝(参加者30名)では「境界線のない教会」と題してメッセージをいただきました。以下、中村牧師によるメッセージの要約より。「…最初期の教会というのは、多様な人々の生き様を受け入れた共同体でした。そして、どんな人も『キリストにあって一つ』だと宣言してきた教会でありました。イエス様は『渇いている人はだれでもわたしのところに来て飲みなさい』(ヨハネ7章37節)と言われました。『だれでも』イエス様のところに来て良いのです。教会に集って良いのです。イエスさまは手を大きく広げて、今、全ての人を招いておられます。イエス様がお招きになっているのに、どうして私たちはそれを遮ることができるのでしょうか。今一度私たちは、イエス様の御言葉に、立ち返りたいと願うものです。」

午後からは講演会「『ふつう』ってなんだろう～LGBTを知ろう」(参加者52名)も開催しました。性自認や性的志向性などの多様性を学びながら、共に生きることについて考えるひとときでした。

小さな教会に大勢の方々がお見えになった二日間。人々が分け隔てなく集える教会を形成していくにはどうすればいいかを深く問われ、考えさせられました。また中村吉基牧師との豊かな交わりの中で、みんなほっとしました。「みんなの教会」を目指す教会として、いただいた宿題に取り組みながら歩みたいと思います。さらにさまざまな教会にこうしたテーマへの関心が広がることを願っています。感謝。【谷本仰(南小倉)】

## 今年もソフトボールができました

9月16日(月)、西南女学院中高グラウンドをお借りして、教会教育委員会主催「第4回連合ソフトボール大会」が開かれました。かなり暑い日でしたが、赤ちゃんからご高齢の方まで、38名(応援含む)の参加がありました。

小さな子ども達から、ご高齢の方(最高齢85歳!)、初心者から野球・ソフトボールの経験者まで、参加者みんながお互いのことを気遣いながらも、こそぞ!という時には、真剣にプレーする様子が見られました。怪我や事故なく、無事終了できたこと、教会間の良き交わりの機会となったことを感謝いたします。【教会教育委員長 酒井朋宏(別府国際)】

